

「今週の一枚」



ツワブキ（キク科）

Farfugium japonicum

暖帯の海岸近くに自生し、庭にもよく植えられます。若い茎の煮付けはフキよりもアクが少なく、柔らかくておいしいものです。フキと名がつきますが本当のフキとは形態的にも生態的にもだいぶ異なり、むしろ山に生えているオタカラコウなどに近い仲間です。

左上は花の拡大写真です。キク科の花は集合花で、ひとつの花に見えるのは小さな花の集まりです。先が2つに分かれてくるりと巻いているのが雌しべで、二またの部分に花粉がつきます。雌しべの軸（花柱）には赤茶色をした雄しべの葯（やく）がぐるりと取り巻いています。その根元に見える黄色いものが花弁です。つまりこの写真では、突き出ている雌しべの数だけ花が集合しているわけです。花弁はよく見るとぎざぎざが5つあります。これはもともと花弁が5枚あったという名残で、5枚の花弁の根元がくっついて筒状になっています（筒状花という）。それでキク科の花は合弁花といえるのです。また、周辺にある花びらは舌状花といって視覚的に虫を引き寄せる役割をしています。

（No. 110 2005. 2. 23 掲載）